

# 社会体育における

## 少年剣道の実態とその問題点

——東京都多摩剣道連合会加盟道場を対象として——

小 倉 清

### ——目 次——

はじめに

#### I 調査の方法

- (1) 調査の対象および内容
- (2) 調査の時期

#### II 調査の結果と考察

- A 各剣連宛の「道場」に関するアンケートの結果
- B 少年部会員を対象としたアンケートの結果
- C 父兄を対象としたアンケートの結果

#### III まとめ

はじめに

剣道の人気はここ一、二年すさまじい。全日本剣道連盟に登録された有段者数は約60万人といわれている。これから推定して競技人口はざっと400万人と連盟ははじいている。各地の町道場や剣道教室は入門希望者倍増で受けつけを制限しているし、又、各大学の剣道部も他の運動部が部員減少を嘆いているのをしりめに部員が増えつづけ、100人を超える大型クラブも沢山みられる。

関東学生剣道連盟（加盟63大学）は世帯がふくれすぎて、この秋から2線級の選手にも試合出場の機会を与える特別の大会を計画しているという。

このようなブームの原因はなにか—— 様々な見方がある中で、渡辺一郎東京大学教授（武道論）は「道徳不在、精神的に荒廃した現代社会の一つの反動現象」と分析している。挨拶一つ満足にできない人間が増え、学校教育もさほどの期待ももてない。しかも「薄情の社会」「しらけの時代」と呼ばれる世の中で、古くからの武道剣

道の中につくりあげられた礼儀作法、精神修養的な面に心のよりどころを求めようとしているのでは……と指摘する。

剣道、柔道のような武道場への入門も厩大な数にのぼっており、剣道の場合全国で約25万人程の幼少年がそれぞれの道場へ入門し毎日の練習に励んでいるのが現状である。

戦後、学校教育の抜本的改革がなされてから30年になる。この間、第一次ベビー・ブーム、そして第二次ベビー・ブームと種々の影響もあり、学校への入学や、就職・結婚にいたるまで大きな波紋を投げかけ、子供達は敗戦という世の大変化のあおりの中に生き、生存競争の激しさをまざまざと感じさせられながら育ってきたわけである。

一生で一番大切なそして最も楽しかるべき発育の途中で食糧難や入学難という関門にせめられ、精神的にも、肉体的にも痛手は大きく、学校生活もただ試験、試験と味けない生活におわれての毎日が現状となってしまった。大学の試験が大変だというならまだしも高校、中学、小学校、幼稚園に至るまでとは何たる世の中であらう。

また経済成長による近代生活は子供にいたずらに安易な生活を楽しむ気風を培い、これでよいのかと、父兄達の心に不安な気持を抱かせる現今になっているのである。

しかし、これは誰の責任ということもできないことであり、世の中の安定に向って根気よく、国民1人1人が自覚して除々に改革するようつとめねばならぬことなのである。

入学難も一向に下火にはならないが、父兄達はこの誤った教育の中で子供達をどのようにして育てていったらよいのか、子供達の為に何をしてやったらよいのかを真剣に考えるような落ち着きを見せてきたことも事実である。ただ、過保護にすぎた教育ママ的考えも峠をこし、子供達の将来を考え、子供達に対し真の幸せをもたらす健康な躰と、複雑な世の中にめげず、生き抜く強い気力と体力をもった人間形成の基礎づくりをせねばならぬと願っているに違いない。現実の学校教育体制は世の変化のあおりを受け、傷痕は深く、新しく前進するにはかなりの時間がかかりそうである。

従って父兄達は現在の学校教育や家庭教育では如何ともしがたい徳育的教育を他に求めようとするのは当然のことと言わなければならない。なかでも礼儀とか、根性作りとか、節度、忍耐などなど、人間形成の基礎となる強い心の養成を、体力づくりに合わせて育てることを望んでいるに違いない。また子供達自身の気持の中にも除々にはあるが、強いからだにならなければいけないという気（自覚）もできつつあるように思える（アンケート調査より）。

## 社会体育における少年剣道の実態とその問題点

一面、子供達の素質を伸ばしてやろう、勉強の不足を補ってやろうと、相も変わらず塾通いをさせている父兄もいるが、剣道、柔道に限らず各種のスポーツ教室等へ通わしている子供達の数は大変な数字になろう。

このことは子供達に対する両親の愛情の発露に外ならないと思うが、調査結果からは自からやってみようと考えて道場通いをしている子供達も可成りいるようで、剣道の練習（稽古）に大きな期待をもって通ってくることを思うと、その任にある吾々の責任は重大なるものがあるといわなければならない。

ただ古来からの文化的遺産である剣道を後世に残さんがため、昔ながらの方法で莫然とした指導をするだけでなく、剣道をどのような姿で子供達の前に現わし、何を求めさせるのかを明らかにしなければならないわけである。

しかしながら、わが国の社会体育機構は未だ整備されておらず、剣道界においても全国的に指導者不足や指導者の質の低下がつねにうたえられているし、指導体制も整っておらず、不整備な道場での練習状況は一言でいうならば「おそまつ」といわざるを得ないのが現状であり、大半の道場は適当な指導に終っているというのが偽らざる姿である。このことは社会的にも大きな問題と見なければならない。

最近、全日本剣道連盟もこのことを大きくとり上げ、幼少年剣道指導特別委員会という研究機関を設け、正しい剣道指導が全国的にゆきわたるべく、基本的な指導要項の作成や指導者養成講習会その他が計画され一部では実施のはこびになってきたことは喜ばしいことであり、今後大きな期待をもつものである。

前述のように近年、幼少年剣道が急激な勢いで伸びを示している。しかし現在幼少年剣道の実態は明らかにされておらず、指導の具体的対策、指導性、指導書（最近漸く少しづつ出てきた程度）などといった指導のよりどころがないように思われる。そこで今回、先づ稽古の場である道場の実態をさぐり、一方、指導を受けている子供達にもアンケートを施し、剣道をどのように考えているか、そして毎日子供達を道場に送り出している父兄にもアンケートを試み剣道に対する期待、又道場に対する要望等を尋ね、少年剣道の現状を把握し問題点を抽出し、今後の研究課題とすべく、研究をすすめた。

## I 調査の方法

### (1) 調査の対象および内容

調査方法は東京都・多摩剣道連合会（東京都剣道連盟の下部組織）の加盟団体である26（昭和50年4月現在）の市町の剣友会、剣道連盟を対象に質問紙法によるアンケ

小 倉 清

ート調査を依頼した。(特に多摩地区を選んだのは、全国的にみた場合、九州地方や四国地方が剣道普及圏または伝統的剣道愛好圏と呼ばれているのと同様に東京都の中でも屈指の剣道愛好圏と推論した理由による。)

多摩剣道連合会加盟団体 (昭和50年4月現在)

立	川	剣	道	会	東	村	山	剣	道	連	盟	青	梅	市	剣	道	連	盟
田	無	剣	友	会	小	金	井	剣	道	連	盟	西	多	摩	暉	光	会	
小	平	剣	友	会	東	大	和	剣	道	連	盟	武	蔵	村	山	剣	道	連
三	鷹	剣	道	連	盟	清	瀬	剣	友	会	秋	山	市	剣	道	連	盟	
国	立	剣	道	連	盟	日	野	剣	道	連	盟	稲	城	剣	道	ク	ラ	ブ
昭	島	剣	道	協	会	八	王	子	剣	道	連	盟	保	谷	剣	友	会	
府	中	市	剣	道	連	盟	八	王	子	愛	友	会	東	久	留	米	剣	友
調	布	市	剣	道	連	盟	町	田	剣	道	連	盟	武	蔵	野	剣	道	連
国	分	寺	剣	友	会	多	摩	市	剣	友	会							

また、少年、父兄を対象としたアンケート調査は地域的にみて丁度、中心地にあるJ剣友会の少年部会員、そしてその父兄に依頼した。

26の剣道連盟、剣友会事務局宛の質問項目は、①施設に関する問題、②組織(会員)に関する問題、③稽古に関する問題、④指導(者)の問題、⑤運営に関する問題として、質問の内容は次にあげる質問紙のとおり。

質問紙 (1)

道場に関するアンケート

該当するものを○で囲んで下さい。

- 貴道場(剣友会)の設立年、会の発足した年、についてお答え下さい。  
明治 大正 昭和 年
- 建物(道場)についてお尋ねします。  
イ 建物の種類 木造、鉄筋、木造兼鉄筋、その他 ( )  
ロ 建物の建築年 明治、大正、昭和、年頃  
ハ 建物の構造 平屋、二階建、土間、その他 ( )
- 道場(建物)の所有(持主)について  
個人持 公共施設 その他 ( )
- 貴道場は剣道の専用道場ですか(はい いいえ)  
いいとお答えの方にお尋ねいたします。  
他の武道と共用 他のスポーツと共用 その他 ( )  
ニ 床面積(稽古を行なうフロアの面積)  
約 坪 又は 約 平方米  
ホ 附帯施設(現在具備しているものは○でかこんで下さい)  
a 男女更衣室 b 男女トイレ c 風呂場 d シャワー室  
e 事務室 f 防具置場(棚) g 休養室
- 会員のことにについてお尋ねします。

社会体育における少年剣道の実態とその問題点

- イ 貴道場の現在の会員数(約 名)  
内 { 幼少年部会員 名  
一般会員 名
- ロ 入会、入門に際し、年令的制限をしておりますか(はい いいえ)  
「はい」とお答えの方は次に答えて下さい。 歳以上又は 年生以上
- ハ 少年部会員のうち毎年何割位の会員が脱落していきますか。  
ほとんどいない 約 割
- ニ 脱落者の主な脱落理由は何だと思われますか、その順位を( )内に御記入下さい。  
( ) 練習がきつい(意志薄弱)  
( ) 進学準備(学習塾にいく為)  
( ) 病気  
( ) 転居  
( ) その他( )
6. 稽古についてお尋ねします。
- イ 稽古日数 { 少年部 週 回  
一般の部 週 回
- ロ 稽古曜日 { 少年部 ( )  
一般の部 ( )
- ハ 一回の稽古時間 { 少年部 ( )  
一般の部 ( )
- ニ 稽古の時間帯 { 午前 時～ 時頃迄  
午後 時～ 時頃迄
7. 指導者(スタッフ)についてお尋ねします
- イ 指導者の陣容(人員) 名
- ロ 指導者の陣容(段位)  
8段 名、7段 名、6段 名、5段 名、4段 名、  
3段 名、その他 名
- ハ 指導者の年令について  
80才代 名、70才代 名、60才代 名、50才代 名、  
40才代 名、30才代 名、20才代 名
- ニ 指導者の手当について  
有給、無給、謝金、その他( )
8. 会費又は月謝等についてお尋ねします。
- イ 入会、入門金 円
- ロ 会費又は月謝 円
- ハ その他( ) 円
9. 道具についてお尋ねします。  
道具は一切個人もち、できるだけ個人もちをすすめている、  
竹刀だけ個人もち、貸道具、その他( )  
貸道具とお答えの方は貸与料金月額( )円

10. 道場設立、会発足の動機についてお書き下さい。

11. 道場の指導方針について（該当するものを○で囲んで下さい）

イ 礼儀、規律、整頓を正しくする

ロ 基本訓練を重点とし、個性の発展を図る

## ハ 健全なる身体、精神の鍛錬

## ニ 根性と心の養成

ホ その他（

12. 道場訓についてありましたらお書き下さい。

13. 道場の運営上、何かお困りの点、また問題点等がありましたら何でも結構ですでお書き下さい。

御協力ありがとうございました。

御記入者名

少年を対象とした調査では、質問項目として①剣道を始めた動機に関して ②現在の稽古（練習）に関して、③剣道の効果に関しての3つの面から調査した。質問内容は次にあげる質問紙のとおり。

質問紙 (2)

## 剣道に関するアンケート

この調査は青少年指導に当っての資料とするものです。よろしく御協力をお願いします。

- A 小学、中学、高校、( )年( )才、男、女

B 剣道を始めたのはいつからですか。小学、中学、高校（ ）年から

C 剣道を始めてから（経験年数）（ ）年（ ）ヶ月

D 現在の段、級位 ( 段、 級)

E けいこは週（ ）回位、（自分でけいこにいく回数）

F けいこに行くのにどのくらいの時間がかかりますか ( 時間 分)

G 現在の健康状態（良い、普通、病弱）

H 現在剣道のほか、学習塾、おけいこ等に行っている場合、その名前を書いて下さい。

(

社会体育における少年剣道の実態とその問題点

◎答はもっとも近いものを選んで○でかこんで下さい。

- 1) 剣道を始めた動機（なぜ剣道を始めたか）についておたづねします。  
健康増進のため      好きだから      剣道をやっているのをみて  
有段者になりたいため      友人や親達にすすめられたため      意志をつよくするため  
美容によいから      その他（理由      ）

2) けいこについておたづねします。

①現在のけいこに満足しているか、どうか、

- 満足している      ○まあまあ      ○不満である

不満であると答えた方は、その理由をお書き下さい。

(      )

②現在のけいこ（けいこ量）は

- 非常に辛い      ○別に辛く感じない      ○もっときびしくしてもよい

③今後ずっと剣道を続けていくつもりですか

- 続けるつもり      ○やめる      ○わからない

④わざの中で得意わざがありますか

- ある      ○別にない      あると答えた方は、そのわざの名前をお書き下さい

(      )

A 健康面から

剣道をやるようになってから

1. 体力が向上した      2. 少しつかれぎみのようだ  
3. 別に変わらない      4. その他 (      )

B 生活面から

剣道をやるようになってから

1. 毎日の生活が充実している（毎日の生活に張りがでた）  
2. つかれのため、生活が不規則になった  
3. 別に変わらない  
4. その他 (      )

C 学業面

1. 剣道をやるようになってから

- ①おくれまいと努力するので学業成績がよかった  
②けいこのつかれで思うように勉強ができず成績が下った  
③別に変わらない  
④その他 (      )

D 友人関係

①剣道をやるようになってから新しい親しい友達ができた

- ②      "      友達との間がうまいくようになった  
③      "      別に変わらない  
④その他 (      )

父兄を対象とした調査では、質問項目を4つ起し①剣道をやらせた動機について

小 倉 清

②剣道に期待するもの ③指導者への要望 ④剣道の効果。のそれぞれの面から質問し回答してもらった。質問紙は次のとおり。

質問紙 (3)

剣道に関するアンケート(御父兄にお願い)

(御記入・ <父、母、兄>)

この調査は青少年指導に当っての資料とするものです。よろしくご協力お願いいたします。

1) お子様に剣道をやらせた動機についてお尋ねします。

2) 剣道に期待するものにつきお書き下さい。

3) 道場に対する要望につきお書き下さい (どんなことでも結構です)

4) 剣道を始めてから何かお子様に変ったことがありますか (剣道の効果)

(2) 調査の時期

各連盟、各剣友会とも年度始めの4月と9月の年二回、新しい会員を入れているのが多く転入出等で会員の出入りが一応納った7月から8月にかけて回答を記入してもらった。尚、父兄対象のアンケートについては少年部会員に用紙を配布し、子供を通して回答をお願いした。

(3) 回答の処理

・多摩剣連加盟26団体に調査をお願いし14の団体より回答をいただいた。(回収率53.8%)。

・少年部 (小・中学生) 会員の意識調査においては、剣道を始めてから1年以上の経



験をもつ4年生以上の少年を対象に行った。J 剣友会所属の第1道場、第2道場の少年部会員それぞれ20名を抽出し記入してもらった。(回収率70.7%)

。父兄対象のアンケートも同様、J 剣友会少年部会員の父兄にお願いし回答していた。40部を配布し回答を出してもらったもの21部、回収率52%であり、その内訳は父親回答分6 母親回答分15部である。

## II 調査の結果と考察

A各連盟宛に依頼した「道場に関する」アンケートの結果

### 1. 道場(剣友会)の設立年、会の発足した年

明 治		0	
大 正	U	1	
昭 和	20年以前	0	
	40年まで	F (30)	} 8
		R (36)	
		J (28)	
		S (32)	
		E (28)	
		G (26)	
		I (35)	
		T (28)	
	40年以降	W (46)	} 4
		N (43)	
		K (42)	
		V (45)	
無記入	C	1	

( ) 内は設立年、会の発足した年度、

14の連盟、剣友会、の道場(建物)のうち、戦前のものは僅かに1つでその殆んどは戦後のものである。しかし調査結果から見られるように、敗戦後しばらくの間武道廃止のうき目をみたが、昭和26年あたりから、多摩各地において続々と復活を見、幾多の先輩達の努力により剣連が発足したことがうかがえる。しかし当時は稽古の場は未だなく、有志が相より語らい自宅の庭などを開放し青空道場で少年指導が行なわれたとのこと。今日の多摩地区の剣道隆盛の蔭にはこのような涙ぐましい努力のあった

ことを忘れることは出来ない。

2. 建物（道場）について

イ、建物の種類

木 造	K, E, G, T (4)	4
鉄 筋	C, F, R, W, J, I, T (4)	7
木造兼鉄筋	U, N, V	3
そ の 他	S (鉄筋)	1

ロ、建物の建築年

明 治

大 正

昭 和	20年以前	C	(20)	}	7
		F	(40)		
		R	(40)		
		S	(40)		
		E	(35)		
		G	(22)		
		I	(40)		
	40年以降	T	(39)	}	6
		U	(45)		
		W	(47)		
		N	(45)		
		K	(42)		
		J	(50)		
		V	(45)		

ハ、建物の構造

平 屋	C, F, R, U, N, K, J, S, G, I, V	11
二 階 建	E	1
土 間		0
そ の 他		0
無 記	W, T	2

3. 道場（建物）の所有（持主）について

個 人 持	G	1
-------	---	---

社会体育における少年剣道の実態とその問題点

公 共 施 設 C, F, R, U, W, N, T, K, J, S, I, V 12

そ の 他 E (私立高校) 1

4. 道場は専用か否か

専 用 G 1

否 C, F, R, U, W, N, T, K, J, S, E, I, V 13

他の武道と共用 U, R, K, J 4

他のスポーツと共用 C, F, U, R, N, T, S, E, I, V 10

そ の 他 0

ニ、床面積

50坪以下 K (30坪) G (24坪) 2

50～100坪 T, J, V 3

100～200坪 C, W, N, S, E, I 5

200～300坪 I 1

300～以上 F 1

記入なし R, U 2

ホ 附帯施設

a 男女別更衣室 C, F, R, U, N, T, K, J, G, I 10

b 男女トイレ C, F, R, U, W, N, T, K, J, S, E, G, J, V 14

c 風呂場

d シャワー室 R, T (有1, 無1) K, J, E 5

e 事 務 室 RK, J 3

f 防 具 置 場 U, T, K, J, G 5

g 休 け い 室

建物（道場）の種類については木造→4, 鉄筋→7, 木造兼鉄筋→3, その他→1となっており、これからの道場はだんだんと鉄筋が増えていく傾向にある。というのはその施設の持主が殆んど公共のものであり、自治体の小、中学校の体育館であり、また市立の武道館であるからである。しかし現在、各自治体には経済力の格差、又意識の格差も大きく、公共施設は貧弱、場所の問題で各連盟は苦慮している。従って当面の問題としては、公共、小学校、中学校の体育施設の社会体育への全面的開放、そしてその協力が望まれる。E剣連の場合など専用の道場がないためにやむなく私立高校体育館を賃借している例もある。小、中学校体育館を道場としている連盟が大部分であるが、稽古日でも学校側の行事等の関係で急に使用できないことなどもあり種々と支

障を来しているのが現状、公共のしかも専用の道場をもたぬまではこの問題は解決し  
 そうもない。又借りものであるため折角具備している附帯施設等が自由に利用できな  
 いことなど問題が山積している。

## 5 会員について

①会員数	50～ 100	G
	101～ 200	E, S, J
	201～ 300	V, F
	301～ 400	K, N, W
	401～ 500	U, C
	501～ 600	I
	601～ 700	
	701～ 800	
	801～ 900	R
	901～1000	T
幼少年部数	50～100	G
	101～200	E, S, J
	201～300	V, K, N, W, F
	301～400	I, U
	401～500	C
	501～600	T, R
一般会員	20以下	G, S 2
	30 //	
	40 //	
	50 //	F, C, V, E, J, W 6
	51～100	K, N, U 3
	101～150	I 1
	151～200	
	201～200	
	301～400	T, R 2

## ②年令制限

。している V, S, E, G, I, J, K, N, W, U, R, F 12

社会体育における少年剣道の実態とその問題点

1年生以上	E, S, R	3
2年生 "		
3年生 "	V, I, J, K, N, W(発足時1年生)U, F, C	9
4年生 "	G	1
。していない	T	1

①脱落者

ほとんどない	I, G, S, U	4
1割以下	K, T	2
1割～2割	V, N, W, F	4
2割～3割	E, J, R, C	4
3割以上		

②脱落者の主な理由

剣友会 理由	V	E	J	K	T	N	W	U	R	F	C
練習がきつい (意志薄弱)		3位	3位	1位	1位	1位		1位	1位	3位	3位
進学準備 (塾にいく為)	1位	1位	1位	2位	2位	2位	2位	2位	2位	1位	2位
病気の為			4位		3位				4位		
転居	2位	2位	2位	3位	4位	3位	1位		3位	2位	1位
その他の他者 (高校入学距離)						4位			5位		

会員数は100名以下のG連盟から約1,000名というT連盟まで規模の面で差が大きい  
が大部分の剣友会は会員数200～500名程である。

各剣友会によって多少異なるが全会員の中、少年部会員のしめる割合は8割～9割  
といえる。

入会に際し年齢制限をしているか否かについては1つを除いて13の剣連では制限し  
ていると答えている。又以前はしていなかったが最近していると答えた剣連も数多く  
みられる。これはここ数年間の剣道ブームも大きく影響していると思われる。入会に  
制限を加えたくないが指導陣容、施設の面等の制約をうけやむなくというのが本音の  
ようである。そしてその入会制限は小学3年生以上は可というのが大多数である。

会員(少年部)の脱落者の調査では殆んどなしと答えたのは4剣連(28%)、他の10  
剣連は0～3割の範囲で脱落者が出ることを報告している。そしてその脱落の理由の

小 倉 清

ベスト3は練習がきつくついてゆけない（意志薄弱）、進学準備（学習塾に行く為）、転居の為等でしめている。練習のきつさの為などは現代っ子気質の一面を現わしているといえよう。

6. ①けいこ日数（週）

	1回	2回	3回
少年部		W, U, C, V, S, E, I, K, T, N, F	G, J, T, R
一般の部	F	W, U, V, S, E, I, N, C	G, K, T, R, J

②けいこ曜日

曜 日	日	月	火	水	木	金	土
少年の部	E, G, J, T, W, U, F	V, S, G, K	J, T, N, U	G, I, K, F	S, E, J, T	V, G, K	I, T, N, W, C
一般の部	E, G, J, W	V, G, S	J, T, N	G, I, K, U, C	S, E, J, T, W	V, G, K	I, J, T, N, U, F, C

1日のけいこ時間

	30分～1h	1h～1.5h	1.5h～2h	2h～2.5h	2.5h以上
少年部	V, S, N, W, R	E, I, J, K, T, C	G, U	F	
一般の部	V, S, C, N, W	I, K, T, R	E, J, F	U	

けいこ時間帯

	7:00～9:00	9:00～10:00	10:00～11:00	11:00～12:00	13:00～15:00
少年の部	T	U, W, U, F	G, K, U, W, F	G, K, W, F	E, J, T, W
一般の部	T	U	G, U	G	E, J
	17:00～18:00	18:00～19:00	19:00～20:00	20:00～21:00	21:00～10:00
少年の部	S, W, N	E, G, I, J, K, T, N, U, R, C	V, E, G, I, J, K, U, R, F, C	I, R, F, C	
一般の部	N	S, E, G, I, R, K, N, W, U	E, G, I, J, C, K, T, W, U, R	V, E, I, J, T, U, R, F, C	

少年部の稽古日数については週2日～3日が平均というところ。組織の大きい剣連では道場が8会場にも分かれており、種々の条件によって同連盟内においても必ずしも稽古の様相は同じとはいえない。

稽古の時間帯については平日の場合、殆どどの剣連で18.00～20.00の間が圧倒的

社会体育における少年剣道の実態とその問題点

に多い。冬季間など夜間だけに稽古の行き帰りの交通事故の問題等種々と心配事が絶えない。

7. 指導者の陣容（段位）

連又剣 は友 盟道会	9 段	8 段	7 段	6 段	5 段	4 段	3 段	そ の 他	計
C	0	0	5	5	4	10	6	0	30
F	0	0	2	2	4	5	12	0	25
R	1	0	8	6	10	20	30	10	85
U	0	0	1	3	3	7	7	4	25
W	0	0	2	2	2	2	6	4	18
N	0	0	4	0	4	3	3	0	14
T	0	0	6	5	10	25	48	0	94
K	0	0	3	0	0	2	1	0	6
J	0	0	0	1	2	0	4	2	9
I	0	0	1	1	3	10	10	5	30
G	0	0	0	0	2	2	0	1	5
E	0	0	1	1	4	3	5	0	14
S	0	0	0	0	4	1	1	4	10
V	0	0	0	2	2	4	6	0	14
計	1	0	33	28	54	94	139	30	379
%	0.3%	0	8.7%	7.4%	14.2%	24.8%	36.7%	7.9%	100%

⑧ 指導者の年令

年令 剣友会	80才代	70才代	60才代	50才代	40才代	30才代	20才代	計
C	0	0	3	8	11	9	9	40
F	0	3	3	10	20	20	20	76
R	0	3	3	10	20	20	29	85
U	0	0	2	4	6	7	6	25
W	0	0	2	2	4	6	4	18
N	0	1	1	2	6	3	1	14
T	0	2	2	5	11	28	21	69
K	0	0	0	1	3	2	0	6
J	0	0	3	0	6	0	0	9
I	0	0	3	5	7	10	5	30
G	0	0	1	0	2	0	2	5
E	0	0	1	2	3	7	1	14
S	0	0	0	4	1	5	0	10
V	0	0	0	0	2	4	8	14
計	0	9	24	53	102	121	106	415
%	0	2.2%	5.8%	12.8%	24.5%	29.2%	25.5%	100%

③指導者の手当

有 給	無 給	謝 金	そ の 他
R(9段のみ)	F, W, T, I, G, S,	C, U, N, K, J	R(年二回程度竹刀を贈呈) E(年に竹刀4本位) V(足代として1ヶ月3,000円)
7.1%	42.8%	35.6%	21.4%

指導者の年令構成では30歳代→29.2%、20歳代→25.5%、40歳代→24.5%、50歳代→12.8%となっており、この点からも指導者不足が伺える。剣道に限ったことではないが、経験豊富な優秀な指導者を多数もてないことは教育の効果という面からも早急に解決せねばならぬ問題である。

指導者の手当については無給と答えた連盟数6(42.8%)、謝金→5(35.6%)、その他→3(21.4%)、有給は僅か1剣連のみ、しかも9段範士に対してのみという回答。約6割のところで殆んど無給で連日、少年剣士の指導に当たっているということである。

8. 会費又は月謝

剣道連盟 剣友会	入会金	会費(月)	そ の 他	備 考
C	1,000	500		
F	1,000	500		
R	2,000	1,000		全会員一律
U	0	200	200	
W	500	500	スポーツ障害保険金として 必要経費(合宿費等)	
N	1,000	500 <sup>2段以上</sup>		3段以下の者年間 1,000
T	300	500	年{一般会員 1,000 少年部 500	
K	1,000	500		
J	500	500	進級審査料 500	50年9月より全会員一律 会費は
I	1,000	500		
G	500	300		
S	200	50		
V	2,000	500		
E	1,000	1,000		全会員一律

会費は月額500円程度が平均値のようだが50円～1,000円の開きがある。又会費を一般と少年と二本立にしている会、或は段位により区別しているなどまちまちである。

この会費は、会の運営費と直接関係しているが、種々の事情により、会費の値上げがむづかしく、各会ともこのことで頭を痛めているというのが実状のようである。



社会体育における少年剣道の実態とその問題点

9. 道具について

剣道連盟 剣友会	一切個人持	できるだけ 個人持奨励	竹刀だけ個人	貸 道 具	そ の 他	料 金
C		○	○			
F	○					
R	○					
U		○				
W	○					
N	○					
T			○		市が防具を貸与	
K	○					
J		○		○		300(補修費)
I		○		○		
G		○		○		200(補修費)
S	○					
V	○					
E	○					
	57.0%	35.7%	0.1%	0.2%		

約60%は防具は一切、個人持ちのたて前をとっているが、T剣連のように市が準備してこれを貸与しているような恵まれた剣連も数少ないがある。又、個人もち、貸防具の二本立をとっているところでは、大体月額、使用料として、(補修費として)200～300円徴収している。

10. 道場設立の動機

道場(連盟)設立の経緯についてはそれぞれ異なるが、①青少年の健全育成、②健全なる心身の養育育成、③青少年の不良化防止、④立派な人づくり、と動機においては共通といえよう。

古くは大正年間に当時の青年有志が愛国心と自己の精神修養のため相より結成し、戦後一時中断し、昭和27年頃から再び結成と長い歴史をもつものもあるが、その多くは昭和30年前後において設立されたと言えよう。また剣連によっては戦後の混乱期に青少年の不良化防止と健全な育成を目指し、警察行政の一翼を担わんとし、地域警察署の外郭団体である防犯協会とタイアップして発足した連盟等もみられる。

11. 道場(剣連)の指導方針

- ① 礼儀、規律、整頓を正しくする。
- ② 健全なる身体、精神の鍛錬
- ③ 基本訓練を重点とし、個性の発展を図る。
- ④ 根性と心の養成

以上の4点を殆どどの剣連が指導方針としてあげている。その外として「正しい剣道を通じ正しい心の涵養」また「青少年の余暇の善用」をあげているところも見られる。

## 12. 道場訓に関して

道場訓については14連盟中11連盟が特別にきめていない(80%)と回答している。しかし各連盟とも連盟としての指導指針をもち、それに基づき青少年指導に当たっている。E剣連の指針を参考までに列挙すれば次のとおりである。

1. 基本に忠実な指導の確立。
2. 指導層の技術向上促進。
3. 全会員の健全な育成と底辺の拡充。

また現在、道場訓をもつ剣連の道場訓を列挙すれば次のとおりである。何れも子供達に理解し易い、平易な言葉でさだめられている点に注目したい。

### F 剣連道場訓

「礼儀正しく 正しい言葉 使い互いに仲よく 良い行い 体をきたえ、学習に励む。

### C 剣友会道場訓

「剣道する子は心を正しく心もつよく

親に心配かけない子にならしましょう」

### I 剣連道場訓

- ①礼儀を正しくしましょう
- ②ウソを言わないようにしましょう
- ③他人に迷惑をかけないようにしましょう
- ④心、身ともに強い子にならしましょう

## 13. 運営上の問題点

会の運営上、各連盟とも種々と問題をかかえている。中でも回答載いたものを上位から順に列挙すれば次のとおりである。

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 1. (よい) 指導者が得られない          | 7 |
| 2. 専用の道場がない為、種々と活動に支障を来たす  | 5 |
| 3. 入会希望者に対し道場が狭い           | 5 |
| 4. 指導者の手当(資金難から)について苦慮     | 3 |
| 5. 指導上の問題(道場が市内6ヵ所に分れている為) | 2 |

〃 〃 (専従指導者が得られない為、系統的に指導できない)

## 社会体育における少年剣道の実態とその問題点

6. 市に総合体育館がない為、大会会場に困難 1

(試合が1日で消化できない有様)

7. 剣道人口の増大で支部制をとっているが問題が多い 1

8. 道場の数が少ない為、又道場の位置が地域的にまづく、通うのに困難。各々 1  
何と云って(良い)指導者が得られないといった問題が圧倒的に多く全体の50%となっている。殆んど道場では無報酬又は薄謝程度の指導手当で特志家の善意・奉仕の上になり立っているだけにむづかしい。これ等の指導者は稽古日に確実に出席出来る保障なく、曜日によって指導者が多い少ない等のことも当然おきてくる。従って上に立つ方々はその責任上、御自分の仕事を犠牲にまでして指導に当たっているといった苦境も聞かされる。

又、専用道場がないことは種々と会の運営上支障をきたし問題になっている。折角の予定行事も借用先の都合により断念せざるを得ないことも度々、また借用している為、防具等の格納棚をもつことができず、子供達は毎日稽古の度に防具袋を持参せねばならず、往復時の交通事故等も考えると何とかせねばならぬ問題の一つである。この専用道場を各剣連が保有すれば各会がかかえている問題の大半は解決されることであらう。

### B 少年部会員を対象としたアンケートの結果

(回答者の内訳) 40部配布、28部回収(70%)

小学校	4年生	4
〃	5年生	9
〃	6年生	9
中学校	1年生	3
〃	2年生	3
〃	3年生	0

### 何歳から剣道を始めたか(経験年数)

幼稚園から	2
小学1年から	2
小学2年から	7
小学3年から	8
小学4年から	7
小学5年から	2
小学6年から	0

この調査より78%の子供達は小学2年～4年にかけて剣道を始めたことが解る。そして自分の稽古回数は週2回～3回と回答している。現在剣道のほか、学習塾、おけいこ等にいつているかどうかの調査では28名中19名の者が剣道以外の学習塾又はおけいこ事をやっている。その中の1人は、剣道に週3回来て、その他に学習塾、スイミングクラブ、習字とスーパーマン振りを発揮しているが、一体子供の特権である遊びをいつやるのだろうか。この辺にも受験地獄といわれているゆがめられた現代学校教育の一面が伺える。

尚、その内訳は以下のとおり。

学 習 塾	6	英 語 塾	3	公文式算数教室	1
ピ ア ノ	5	スイミング	3		
書 道	3	家庭教師	2		
習 字	3	絵	1		

#### 1. 剣道を始めた動機

剣道をやっているのを見て	9
健康増進のため	7
意志をつよくするため	7
親や友人にすすめられたため	5
好きだから	4

その他（マンガを見てやりたくなったと答えている） 1

となっている。合計と人数の計が合わないのは一人で2つ以上の理由を挙げた者がいる為。

#### 2. 稽古について

現在の稽古についての問では満足している14、まあまあ13、不満1となっており、殆んどの者が満足しているといえるよう。不満と答えた1人はもっときびしく、もっと沢山稽古したいと言っている。また稽古量では大多数の者が別につらく感じていないと答えている。尚、剣道を将来もずっと続けていく心算いか否かの問では続けるつもりと答えている者22名、わからないと答えた者6名、85%の者は続けたいと答えている点は注目したい。少年剣士は大部分がやる気充分で稽古に励んでいるとみてよい。得意わざについての質問では僅か5名の者が得意わざをもっていると答えている。そしてその技は胴、面、小手がそれぞれ6、2、2となっている。

剣道の効果について少年剣士自身に質問したところ、健康面では剣道をやるようになってから体力が向上したと28名中23名が答えている（82%）、別に変らないが4、無

記1となっている。

次に生活面からみると剣道をやるようになってから毎日の生活が充実している（毎日の生活に張りがでた）→5、別に変わらない→23

尚、学業面からこれを見た場合、剣道をやるようになってから他人におくれまいと努力するので学業成績がよくなった4、別に変わらない23、疲れのため思うようにできず成績が下がったと答えた者→0という結果である。そして大部分の者が剣道をやるようになってから新しい親しい友達ができた。又友達との間がうまくいくようになったと答えている。

#### C 父兄を対象としたアンケートの結果、

40部を配布し回答を得たもの21部（内訳父親6、母親15）回収率52%

質問は①お子様に剣道をさせた動機について、②剣道に対する期待、③道場に対する要望、そして④剣道の効果の4つの面から尋ねた。

##### 1. 動機

###### 父親の回答内容

①規律正しい生活、②強い精神力、③厳しい躰、及び剣理、④心身の鍛錬、⑤礼儀  
⑥集団の中での規律、⑦余暇の善用、⑧体力の向上、⑨我儘をなくし自立心を養うため、意志を強固に

###### 母親の回答内容

①体力の増進と行儀をよくするため、②女兄弟の中の男なので男らしさを身につけるため、③身体が弱かった為、体力づくりのため(2)、④礼儀正しくなるように(2)、  
⑤剣道は生涯できるから、⑥意志を強くするため健康増進のため、⑦子供自身もやりたいと言ったから(2)、⑧友人にさそわれたから、⑨我儘な子供なので集団の中で矯正したいため、⑩小さい頃から乱暴がはげしい為、体力の発散のため、⑪心身の鍛錬(2)、⑫本人が習いたいと言ったので(2)、⑬積極性に欠けるので、⑭精神修養のため

##### 2. 期待

###### 父親の回答内容

①不屈の精神を養い、頑強な体力づくり、②心身の調和、③心身の鍛錬及び礼儀正しさ(4)

###### 母親の回答内容

①体力の増進と行儀正しさ(4)、②正しい生活態度、③目上の方を敬まう心、④男らしいたくましい、⑤子供に剣道をずっと続けて欲しい、⑥自立心を育てる。⑦マナー、⑧積極性をもって欲しい、⑨忍耐力、⑩心身の鍛錬

### 3. 道場に対する要望

#### 父親の回答内容

①良く指導してもらっているので別になし(2)、②もっときびしくして欲しい。③将来はもっと道場を市内に増やし希望者全員が入会できるように、④合宿はもっと期間を長く、⑤特になし(2)

#### 母親の回答内容

①道場が少し遠すぎるのが残念です、②先生方の良き御指導に深い感謝をしています、③居住地ともっと近いとよい(夜間行くので心配、交通事故、暴力等)④道場が狭すぎる、⑤もっと広いところをびしびし稽古をお願いしたい。⑥別になし(5)

### 4. 効果

#### 父親の回答内容

①姿勢が良くなった、②別に効果を期待しないが一生の間には必らず役に立つ、③級位が上につれ意欲をもってきたようだ。④少し我儘な性格がとれたようだ。⑤落着きが出て、体が丈夫になった。

#### 母親の回答内容

①父母の言うことをよく聞くようになった、②自律心が出てきた、③何事にも積極性が出てきた。④心身の上に少しずつ効果が出てきている。⑤礼儀が正しくなってきた(3)、⑥明るい性格と体も丈夫になった。何か内にひめた自信めいたものを感じる⑦健康に自信をもってきたように感じる。⑧毎日の生活では別に変った様子はないが他所に行ったときなどそれなりの態度をとるようです(礼儀・作法の面で)、⑨姿勢がよくなった、⑩大きな声ではっきりした言動が出来るようになった、⑪体力が少しづつついたよう、⑫挨拶が出来るようになり、剣道をさせて良かったと思っている。⑬食事のときなどとても行儀がよくなった。

以上、父親、母親の回答をそのまま列したが、それぞれ独自の観方、とらえ方をしていることに気付く、母親の場合、子供との接触時間が長いせいか生活の面から、より具体的に子供を掴んでいることが理解できる。道場に対する要望等をみても具体性がある。稽古が主に夜間行なわれるのでその往復途中での交通事故問題、又暴力の問題など親とすれば最も心配事の一つであろう。居住地の近くに道場が出来るようになればこれらの問題も解決するわけである。

### Ⅲ まとめ

以上、道場に対するアンケート、少年部会員を対象としたアンケート、父兄を対象

としたアンケートの回答をもとに考察してきたが、大きく分けて道場に関する問題、指導者に関する問題の二つに大別できよう。

①の道場に関しての問題では各剣連が目下どこでも頭をかかえている。即ち専用道場をもてないために新たに種々と問題をひき起している。例えば、計画を立ててもスケジュール通りの活動が出来ない。又道場が狭いため、入会希望者全員の意に応えられない。子供達は重い防具をおく場所がなく稽古毎にその都度、持っていくことを余儀なくされている（交通事故の心配）。或いは道場の数が少ないため、遠くまで行かざるを得ない。又道場がないので賃借りの場合、運営資金の面に直接にひびいてくる——、財政難で苦しい各自治体ではあるが掛け声だけに終ることなく、早急に解決をせまられている問題である。前述したように各自治体が専用の道場をもつようになれば現在の剣連が悩む問題の大半は解決されることであろう。

もう一つの問題が指導者に関する問題である。運営上の問題点のところでも述べたが約半数の剣連、剣友会で良き指導者が得られないことを問題点として挙げている。大方の道場では無報酬で指導して下さる篤志家の善意にすぎり、行なわれているようであるが、だからといって、いつまでも無報酬で奉仕してもらってよいものではない。次代を担う幼少年のために、各地方自治体はこのような有効な所に金を使うべきではなかろうか、当面の問題は各道場（剣連）に最低一人の専従指導者が欲しい。この辺で抜本的施策を講じ、意識の転換を計らないと、折角芽ばえた社会体育として剣道も前途は甚だ暗いものとなるであろう。

#### 参考文献

日本武道学会 会報 No.3 幼少年剣道問題思考「剣道時代」（雑誌）

学校剣道 新体育学講座52

剣道 中学体育シリーズ

（おぐら きよし 本学教授・保健体育学）